

女子柔道部

関西学生2連覇!
決勝で惜敗も、
堂々の全国大会準優勝!



決勝で2連覇中の早稲田大に挑む明治国際医療大

大会結果

4/14 (土)	第73回国体一次選考会 (京都・京都市武道センター)	57kg級 2位 刈谷美咲(2年) 3位 丸山佳代(1年) 無差別級 優勝 三苫桃子(2年)
5/3 (木・祝)	第20回京都学生女子柔道大会 (京都・京都産業大学)	3人制の部 3位
5/12 (土)	全日本ジュニア体重別選手権京都府予選会 (京都・京都市武道センター)	52kg級 2位 刈谷美咲(2年) 78kg超級 2位 三苫桃子(2年) 78kg超級 3位 上田莉圭(1年)
5/27 (日)	第26回関西学生女子柔道優勝大会 (兵庫・ベイコム総合体育館)	3人制の部 優勝 ☆2連覇
6/23 (土)	第27回全日本学生女子柔道優勝大会 (東京・日本武道館)	3人制の部 準優勝
7/8 (日)	第13回近畿ジュニア柔道体重別選手権大会 (兵庫・兵庫県立武道館)	78kg超級 2位 三苫桃子(2年)

初出場、初優勝を飾った昨年の関西大会から1年。第1シード校として新たな戦いに挑んだ明治国際医療大。初戦となった2回戦こそ、代表戦までもつれたものの、あとは決勝まで危なげなく勝ち進み、2年連続、関西の王者として、全国大会出場を決めた。3人で戦い切った昨年とは違い、畳内外でチーム力を発揮した明治国際医療大の選手たち。全国大会では準決勝で昨年度の準優勝の創価大に3人目林(1年)が1本勝ちで追いつき、三苫(2年)が代表戦を激闘の末、勝利するドラマを演じてみせた。決勝では、3連覇を果たした早大に敗れたものの、明治国際の名が大学女子柔道の歴史に刻まれる日が近いことを確信する見事な戦いぶりだった。

京都・南丹から、全国、世界へ躍動。

強化指定クラブの選手たちの活躍の軌跡をレポート。



勝機も見えたなかでの悔しい全国初戦



女子剣道部



ついに全国の舞台へ!
秋の団体での
全国出場へ、期待大。

大会結果

5/6 (日)	第48回関西女子学生剣道選手権大会 (大阪・府民共済SUPERアリーナ)	ベスト16 阿瀬知(2年) ベスト32 中園(2年)
6/2 (土) ~ 3(日)	第33回西日本女子学生剣道大会 (福岡・福岡市民体育館)	団体 ベスト32
6/17 (日)	第60回京滋学生剣道大会 (京都・大谷大学)	団体 3位 個人 準優勝 中園(2年) / ベスト8 横江(3年) ベスト16 河原(1年) / 中小野田(1年)
7/1 (日)	第34回京都府女子剣道大会 兼第57回全日本女子剣道選手権大会京都府予選会 (京都・京都市武道センター)	団体 3位 Aチーム・Bチーム ☆優秀選手賞 市瀬(1年) 個人 ベスト8 市瀬(1年) / ベスト16 河原(1年)・中園(2年)
7/7 (土) ~ 8(日)	第52回全日本女子学生剣道選手権大会 (東京・日本武道館)	阿瀬知(2年) 2回戦敗退

関西大会とは、レベルも、会場の雰囲気も違う。全国の頂点を決める戦い…大学の威信を賭けて挑む選手たちの覚悟と決意が漂う異様な空気のなか、明治国際医療大の新たな歴史のスタートに阿瀬知(2年)は立った。緊張感は見えず、普段通りに見える。相手は関東、全国でも屈指の好敵手。「勝てると思った。でも、こういう場所での経験の差ですかね。負け方も彼女らしい」と初舞台を振り返った水谷監督。力負けではなく、十分に戦える手応えをつかみ、視線はすでに秋の団体での全国大会出場に向いている。若いチームだけに怖いものはない。日々磨く、「心技体」を100%発揮できるか。今期2つ目の全国の舞台へ、一丸で挑む。

陸上競技部



**関西インカレ(2部) 投てき陣がけん引!
フィールドVで秋の飛躍を誓う。**

写真提供:月刊陸上競技

昨年に続き、関西インカレで躍動。充実一途の投てき陣がチームを引っ張り、獲得した総得点も73点にアップ。跳躍、トラックでも個々が力を発揮。総合4位へと躍進した。ハンマー投の男子若山(2年)、女子伊藤(1年)を筆頭に、自己記録全国上位が揃った投てき陣。日本屈指の最高の環境のもと、互いに切磋琢磨し、最高の結果を期待したい。



男子(2部)ハンマー投で表彰台を独占

大会結果

5/10(木) 第95回関西学生陸上競技対校選手権大会(京都・西京極陸上競技場) ~13(日)

円盤投	ソニーリー浩夢ロイ(4年) 優勝 40m20 / 天野大輝(2年) 2位 39m88
ハンマー投	若山哲也(2年) 優勝 61m11 / 田村啓斗(2年) 2位 58m06 / 仲西隆世(3年) 3位 56m03
やり投	岡田大地(4年) 優勝 61m88 / 金川陽亮(2年) 2位 60m74 / 小牧豊和(4年) 3位 59m03
男子	4×400mR 東・横路・斉藤・勝原 3位 3分13秒80
4×100mR	新井・勝原・斉藤・東 6位 41秒56
走幅跳	青山吉彦(3年) 5位 7m03 / 平田陸(2年) 8位 6m95
男子400m	横路秀(2年) 7位 48秒98
総合	4位 73点(トラック11点・フィールド 62点) ☆フィールド 優勝
ハンマー投	伊藤エリカ(1年) 4位 50m51 / 濱口美菜(4年) 5位 49m32
女子	砲丸投 山本怜奈(1年) 6位 12m93
やり投	重川夏歩(2年) 8位 45m62

6/15(金) 2018日本学生陸上競技個人選手権大会(神奈川・Shonan BMW スタジアム平塚) ~17(日) 男子ハンマー投 若山哲也(2年) 5位 64m30 / 田村啓斗(2年) 7位 61m50

6/29(金) 第71回西日本学生陸上競技対校選手権大会(沖縄・沖縄県総合運動公園陸上競技場) ~7/1(日) 男子やり投 小牧豊和(4年) 6位 67m64 / 金川陽亮(2年) 8位 65m52

9/6(木) 天皇賜盃第87回日本学生陸上競技対校選手権大会(神奈川・等々力陸上競技場) ~9(日) 男子ハンマー投 若山哲也(2年) 6位 62m73

女子サッカー一部

**苦しんだ春シーズンも
着実にチーム力はアップ。
2年連続全日本インカレ出場に挑む。**



春季リーグ6位もチームは着実に進化。

インカレで上位成績を残すチームが多い関西女子1部。昨年度の秋季リーグから1部に昇格し、悲願のインカレ出場を果たすことができた。今年も春季リーグで1部に残留し秋季リーグでは新体制チームの本領発揮。「今年の秋季リーグは春からの取り組みの成果が期待できる」と中村監督。冬のインカレ出場を目指した大舞台への挑戦が新たに始まる。

大会結果

- 関西学生女子サッカー 春季リーグ 1部
6位 勝ち点 7 2勝1分4敗
- 京都FAカップ2018第14回京都女子サッカー選手権大会 兼
第40回皇后杯全日本女子サッカー選手権京都府大会
7/21(土) 決勝 ○1-0 VS 京都精華学園高校女子サッカー部
☆第40回皇后杯全日本女子サッカー選手権関西大会に進出
- 第47回関西女子サッカー選手権大会 兼 皇后杯JFA第40回全日本女子サッカー選手権大会 関西大会
9/2(日) 1回戦 ● 1-2 VS 武庫川女子大

男子バレーボール部

**2018春季リーグ
4部2位・入替戦に勝利し、3部昇格!
充実の攻撃陣が3部でも躍動の予感。**



“昨秋と同じ轍は踏まない”実力を出し切れず、不完全燃焼のまま終わった昨年の秋季リーグ。「攻撃力は大学上位クラスのレベル。攻撃を活かせる安定した守備さえできれば」という監督の声に応えるべく、冬を越えて選手たちは見違える成長をみせた。新入生を迎え入れ、新チームで挑んだ春季リーグで見事に3部昇格を果たした。攻撃面でエース浅草(3年)を中心にさらにバリエーションが充実したのも大きい。いざ3部制覇へ。



攻撃を活かす「守備」がカギ



大会結果

- 2018年度 関西学生バレーボール 春季リーグ戦
4部 2位(入替戦勝利) ☆3部昇格
- 第44回西日本バレーボール大学選手権大会
予選グループ戦 突破/決勝トーナメント 2回戦進出

